

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私が同志社女子大学に決めたのは、高3の夏休みです。私は高1から高3まで3回オープンキャンパスに行き、いろいろな設備が充実しており、また、キャンパス内の雰囲気もすごく良いと感じていました。家から通うことができ、かつ設備が整い、雰囲気の良い場所で学びたいと思い同志社女子大学に決めました。

(2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

まだ学祭などもあり本格的には勉強できていませんでしたが、学校が終わってから塾にいった少しだけでも勉強したり、単語語や教科書を読んだりと基礎的な内容をしていました。苦手教科を後回しにしてしまうくせがあるので、苦手教科を1番に勉強するようにしていました。寝る前は暗記を中心にしていました。

〔夏休み〕

本格的に受験勉強に取り組み始め、単語語はおぼえていない単語と単語カードにし、発音、アクセントも一緒に書き、おぼえる時は必ず発音しておぼえるようにしていました。そうすることで、センター試験の発音アクセントの勉強も同時にしていました。夏休みは毎日塾が開く時間から最後まで残って勉強することを癖づけることで最初は大変と感じていましたが、夏休みが終わるころには勉強するのが苦ではなくなりました。そして夏休み中にセンター試験や自分の受ける大学の過去問を1年分すべて解き、傾向をつかむことを意識して解きました。

〔2学期～入試直前〕

2学期には模試が多くあったので、必ず復習して、苦手分野を見つけ、次の模試までには苦手を克服するようにしていました。数学では問題量をこなすことも大切ですが、私は間違えた問題の復習を中心に勉強していました。間違えた問題をノートに貼り、自分だけのノートをついたり、切りとれなかった場合は付箋を貼るなどして、勉強の効率を高めるようにしていました。生物は暗記物!! そう思っているかもしれませんが、図や実験内容は盲点になりやすいので、教科書や参考書の図などもしっかりと何回もみておぼえました。入試直前は自分がこれまでにつけたノートをみかえしたり、単語や、暗記の最終確認をしたりして問題はほとんど解いていませんでした。また入試に向けて夜12時まえには寝て、朝はやく起き、入試を行う時間に脳が活動するようにもしていました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

学校の行事、特に学祭は高校最後の思い出になるので、最後まで楽しみやりとげるべきだと思います。私の学校では学祭が終わるとみんな勉強モードに入り、SNSを消す人が多かったので私も受験勉強中は消していました。ただ夏休みや2学期は不安とあせりでしんどかったですが、友達と昼ごはんや帰り道で話したりすることで、また明日から頑張ろうという気持ちを持ち続けることができました。それでもしんどい時は時間を決めてテレビをみたり、1日のうちの数分だけ自分の好きなことをする時間を取り、乗り越えていました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

他の人と自分を比べず、自分に適した勉強法で受験勉強をしてください。他人がしている勉強教材を、自分はしていないからといって、いろいろな教材に手をだすことはNGです。人はそれぞれ苦手とする分野は異なります。最後に悔いが残らないう、自分は一生懸命やりきったと言えることが受験では大切なことです。諦めず志望校を下げず、将来自分のやりたいことができるよう、この一年、頑張ってください。